

相続税



基礎控除額の縮小。相続税の課税対象者が増加します。

相続税の基礎控除額とは、相続税の課税最低限の金額を意味します。亡くなった方の遺産総額が基礎控除額以下である場合には相続税は課税されません。(資料参照)

| 現行制度 | 平成23年4月1日以後の相続 |
|-----------------------------|---------------------------|
| 5,000万円 + 1,000万円 × 法定相続人の数 | 3,000万円 + 600万円 × 法定相続人の数 |



税率構造の見直し。遺産が高額な場合には税率引き上げ。

相続税の総額は、遺産総額(基礎控除後)を法定相続人が法定相続分で取得したと仮定した各取得金額に、超過累進税率を乗じて計算した税額の合計額です。

| 現行制度 | | | 平成23年4月1日以後の相続 | | | | | |
|------------|-----|---------|----------------|-----|-------|------------|-----|---------|
| 法定相続人の取得金額 | 税率 | 控除額 | 法定相続人の取得金額 | 税率 | 控除額 | 法定相続人の取得金額 | 税率 | 控除額 |
| 1,000万円以下 | 10% | 0円 | 1,000万円以下 | 10% | 0円 | 2億円以下 | 40% | 1,700万円 |
| 3,000万円以下 | 15% | 50万円 | 3,000万円以下 | 15% | 50万円 | 3億円以下 | 45% | 2,700万円 |
| 5,000万円以下 | 20% | 200万円 | 5,000万円以下 | 20% | 200万円 | 6億円以下 | 50% | 4,200万円 |
| 1億円以下 | 30% | 700万円 | 1億円以下 | 30% | 700万円 | 6億円超 | 55% | 7,200万円 |
| 3億円以下 | 40% | 1,700万円 | | | | | | |
| 3億円超 | 50% | 4,700万円 | | | | | | |

相続税



死亡保険金に対する非課税制度の縮小。

死亡保険金も相続税の課税対象となりますが、一定金額までは非課税措置がとられています。

| 現行制度 | 平成23年4月1日以後の相続 |
|--|---|
| 死亡保険金の総額に対し、 500万円 × 法定相続人の数 まで非課税 | <u>未成年者 障害者 被相続人の生計一親族に限定</u> 500万円 × 法定相続人の数 |

相続税の増税による影響は？ (妻と子2人が相続する場合)

| 遺産の課税価格 | 相続税額 | 増税額は |
|---------|---------|--------|
| 7000万 | 112.5万 | 112.5万 |
| 1億 | 315万 | 215万 |
| 3億 | 2860万 | 560万 |
| 5億 | 6555万 | 705万 |
| 10億 | 1億7810万 | 1160万 |

(注)大和総研試算 (単位:円)

来年度改正で新たに相続税の負担が生じるのは…

夫が亡くなり、妻と子ども2人が相続する場合
遺産の課税価格が4800万円超～8000万円未満

子ども2人が親から相続する場合
同4200万円超～7000万円未満

非課税・負担軽減の措置を使えば負担なしで済むケースも多い

遺産取得額が1億6000万円までの妻 相続税かからず

同居していた宅地を相続する場合など 宅地の評価額を8割カット